

## 第15回 2012年9月10日(月)

- 自由討議 ①「ロンドンオリンピック」のテレビ中継を見て  
②「メディアウォッチング」の今後の活動について  
③「放送を考える会～メディアウォッチング」ホームページ

6月から掲載始まる

### 司会

ご案内の通り、今日はゲスト無しということで、(上記の) 三つのテーマについて話を進めていきたい。まずテーマ①の「ロンドンオリンピックのテレビ中継を見て」について、皆さまが感じられたオリンピック報道の印象をお伺いしたい。

メディア批判に関連したことで、最近森田 実さんが著した「橋下 徹 ニヒリズムの研究」(東洋経済新報社) という本が話題になっている。この本はアンチ橋下 徹(「維新の会」代表)の本だが、鋭いメディア批判もしている。それから(以前からすでにベストセラーズになっている)藤原正彦著「国家の品格」(新潮社)を最近になってようやく読んだのだが、この本でも、今メディアは最大の権力団体になっていると指摘している。この人と同じようなことを考えている人がいるのだなと感じた。

### ① 自由討議「ロンドンオリンピック」のテレビ中継を見て

<はしゃぎすぎるリポーター、アナウンサー オリンピックテレビ中継>

出席者 高橋信三基金設立20周年を記念するシンポジウム(「テレビの未来と可能性」)を開催するにあたり、識者にアンケートを求めたところ、あるジャーナリストからロンドンオリンピックの報道について厳しい意見が寄せられた。

とにかくテレビ中継のアナウンサーがはしゃぎまわって、メダルラッシュにひとりで勝手に酔いしれていた。それで入賞した選手には“今の気持ちは”なんていう愚にも付かない質問を繰り返して、答える選手の側は“支援してくれた人に感謝 - - -” そういうお決まりの感想を引き出して満足している。どうしようもない放送が毎日続いてもううんざりした。

オリンピック報道がすべてダメではないと思うが、すべての新聞、すべての放送が同じように横並びで報道するというのがとてもたまらなかった。しかし東京ではどうにもならないのだろう。多少とも期待できる可能性が残っているとすれば、関西ではそういう暑苦しい、メディアの横並び状況みたいなものは打破して、東京でやっていないことをさりげなく、涼しい顔をしてやってほしかった。

出席者 (お配りした資料に含まれていない)「新聞研究」最新号(2012年9月号)に掲載されていた記事の中から在英ジャーナリスト小林恭子さんの報告「ソーシャルメディアの利用拡大~英国の五輪報道」の一部を紹介する。文末で、元ガーディアン社のデジタルメディア責任者エミリー・ベルの言葉を引用した<sup>くだり</sup>件がある。

デジタル技術によって、世界中に情報が伝わるようになった。ネット、あるいはベルが言うところの『第2の画面』(パソコン、携帯端末、スマートテレビなど、双方向がある視聴プラットフォームの画面)は『情報を共有し、第1の画面(テレビ受像機の画面)が提供できない不足分を満たす存在となった』。ロンドン五輪は、テレビ局が決めた番組予定にしたがってコンテンツを視聴する最後の五輪になるかもしれない、とベルは結んでいる。

つまりテレビ局が編成した番組表にしたがってテレビを見るというスタイルは今度のロンドンオリンピックが最後になるだろうと言っている。次のオリンピックからは多分視聴者がテレビとか、ネットとかそれぞれが媒体をセレクトし、オリンピックの映像を楽しむことになるのではないかと推測している。

このようにネットの時代になっても、新聞報道は深夜から明け方に入ってきた新しい情報は号外で伝えた。原始的な情報伝達手段であるが、資料にもあるようにやはり号外のインパクトは強かったと記している。

残念ながら今のところ、放送研究などの専門誌でロンドンオリンピックのテレビ放送を総括した記事はない(比較的容易に比較検証できる新聞メディアに比べて、映像が瞬時に消える特性を持つテレビ番組、特に生中継の客観的な調査・検証は時間がかかる上、難しい作業になる)。

ちなみに私自身、ネットのオリンピック中継は見ていないのでネットの影響力など分からない。

司会 ネットでロンドンオリンピックをご覧になった方はおられるか。あまりネットでオリンピックを見ようという気にならない。

出席者 地上波で放送すれば、ネットで見える気になれない。

出席者 朝日新聞(2012年8月29日)の記事で「オリンピック報道、じっくり新聞」というデータが掲載されていた。これは新聞7紙が8月初旬に共同調査したもので、オリンピックの情報源について「報道結果の詳しい内容を知る」では、(新聞が)テレビの61.5%を上回る65.1%という結果が出た。詳しく幅広い情報を求める場

合、新聞は信頼されていることが裏づけられたと伝えている。

（ネットでも放送されたが）最終的には新聞で記録・結果を確認したという人が多かったことを示している。

出席者 非常に恥ずかしいと感じた番組があった。女子バレーのテレビ中継の一場面（メダル確定）で、試合直後、レポートしていたフジテレビのアナウンサーのところに選手が次々やって来て、本当にお友達みたいな会話を交わす、そしてハグハグしたりして。あの場面を見ていてこれはスポーツ中継じゃない、色物の中継なんだなと思った。と同時に非常に恥ずかしくて、こういう個人的なものに見える映像をテレビ（公共の電波）で放送していいものかと感じた。どの程度、苦情があったか確認していない。

出席者 私はオリンピック中継をあまり見ていないが、強いて言うならば（兵庫県出身なので）なでしこジャパンの試合（女子サッカー）だけはじっくり見た。

出席者 時差 8 時間の関係でやはり非常に見にくかった。生放送と録画放送と記録映像が混在していて、どれが現在進行形のゲームなのか、分かりにくかった。

出席者 LIVE のクレジットが入っているのではないか。

出席者 LIVE のクレジットが入っていても、VTR 再生の場合があった。

司会 そのケースはあった。

出席者 改めて感じたのは、テレビにメディアとしての力があるのは生放送のときである。ネットにも新聞にも勝てるのは、テレビが生放送を軸にして放送しているときだけである。昼間の放送では画面がどんどん変わって行って、断片的で見づらかった。もちろんサッカー、体操、水泳、マラソンなど生放送のメリットが十分生かされた種目もあった。

<オリンピック放送は NHK が軸、民放の放送は目立たなかった>

出席者 ラテ欄を見ると、（オリンピック放送は）NHK を縦軸にして、民放のどこかの局が他の種目を中継する形で連日進行していた。

以前のオリンピックでは民放はテレビ中継していた種目はもっともっと多かったと思う。

出席者 かつては分担を決めてやっていた。

出席者 今回もそうなんだが、民放の担当する時間数が少なかった。少ないのか、たまたま見なかったのかよく分からない。

{注} 民間放送（民放連発行、2012年8月23日付）によると  
「地上波のロンドンオリンピック民放テレビの放送枠の  
総時間数は224時間02分で過去最大規模となった」とある。

出席者 民放の放送内容に問題があった。アナウンサーのしゃべりだけが聞こえてくる感じ、試合そのものを放送しているのか、試合経過が分からないケースがあった。だから結果は新聞でということになっている。民放のオリンピック放送がスポーツバラエティー化してしまって訴える力はどこにもない。どの会合に行っても苦情を言われた。

司会 NHKは今回余分な力がいっていたと思わないか。大事な正午のニュースまで遅らせて、オリンピック関連の情報を流していた。

出席者 民放のオリンピック中継が目立たなかったということか。NHKが全部オリンピック中継を放送しているような印象になる。  
これまではバレーはフジ系で、マラソンはTBSで見ようかというようなことが皆の頭の中に入っているような編成だった。民放のチャンネルを選択するときには視聴者に知識を与え、バレーならフジ系をとというような事前PRをすべきだった。NHKも地上波と衛星の両方のチャンネルを持っているので、生放送は衛星でとか、チャンネルの性格づけをもっとはっきりさせていけば視聴者も選択しやすかった。

出席者 民放はある意味ではオリンピック放送から引いたのではないか。昔はオリンピック放送の枠を取り合いしていた。それと放送時間の枠の問題がある。

出席者 なぜ放送権をとりに行かなくなったのか。高額だからか、それともスポーツはもういいということでやめたのか、分からない。

出席者 両方だな。そもそもの話をすると、日本におけるオリンピック放送の権利を民放共同でNHKと分担するという話が出たとき、民放は（放送権を取得するために）金を出す必要がないと我々は考えた。これは受信料を取っているNHKが支払い、NHKはこれだけ使う、あとは民放で使ってください、こうするのが当たり前だと思っていた。原則、建前はそういうことだった。あのとき民放は儲かっていたの

で民放連が金を出したから今のようになったが、オリンピックの放送権料というものはNHKに払わせたらいい性格のものである。NHKだけがオリンピック放送をしたら、視聴者は文句を言うだろう。国民は怒ると思う。そういうことのために民放には（オリンピック放送の）割り当てがある。これが普通の考え方だと思う。（NHKとの分担の話が出た）最初的时候報道局長をやっている、民放連の報道委員会でそのような考え方を話したと思う。だからNHKがしっかりしてもらわないといけない。それもはっきりしなかったとすれば、先ほども話が出た「（ロンドンオリンピックは）テレビ局の編成によって見るオリンピックの最後になる」ということはあり得ると思う。オリンピックをどのように編成するかということがまず根本にある。そういうことを考えておかなければならないのに、NHKですら生放送を地上波でやったり、衛星でやったりして、はっきりした編成方針がなかった。

テレビは今後もオリンピック放送のメインのメディアになり得るのだが、今みたいにNHKも民放も何の考えも持たずに放送していれば、それが見えてこない。オリンピックに対するNHKの根本的な考え方は何か。

出席者 チャンネルが増えたので荒っぽい形になる。アメリカの場合、CBS,ABC,NBCにしても一つのチャンネルで（オリンピックの競技を）放送するはず、だから集中できる（アメリカはNBCが独占放送権を持つ）。日本の場合は地上波を入れて7つか8つチャンネルがあるはずである。

出席者 今回チャンネルが増えたので面白くなかったのか。

出席者 BSの分だけ増えた。だからだいぶ内容が薄まる。

出席者 NHKもBSは1チャンネルと3チャンネルを使い分けていたが、視聴者からすれば切り替えが不便だった。

出席者 オリンピックのおかげではじめて深夜のテレビ番組を見たという（在阪局の）人の話。

見ているうちにあまりのくだらなさに腹が立ち、編成に“何という番組を放送しているのだ”と文句を言った。すると（編成マンが）“前から放送しているのに今さら何を言うのですか”と言われ、愕然としたという。

出席者 オリンピック中継に限らないと思うのだが、BSの放送を見ているとCMが非常に多い。地上波ではコマーシャルは18%までという制限があったが、今はどうなっ

ているのか。

出席者 今も制限はある。しかし昔からいい加減だ。特に深夜は。BS も同じように適用されているはず。

出席者 テレビショッピングなどはコマーシャルなのか微妙なところである。テレビショッピングはコマーシャルでなく情報番組に分類されている場合がある。

出席者 青汁のコマーシャルをご覧になったことがあるか。途中から見るとドラマかと思う場面が出てくる。ところがだんだん見ていると青汁のところに話がすすむ。

<深夜の生放送は刺激的 松本選手（柔道）の狼のような眼差しはすごい>

出席者 皆さんと生活時間が違うので、私は寝るのが朝 5 時半か 6 時。だから深夜は起きるので、オリンピック放送はナマ（生）でよく見た。その点昼間の再放送はほとんど見ていない。私はスポーツ放送というのはナマだと思っている。朝 3 時とか 4 時半の時間帯に、オリンピック中継をナマで見るとするのは非常に刺激的のものである。あの時間帯に、金メダルを取った柔道女子（57 キロ級）の松本薫選手のあの狼のような鋭い表情をナマで見ると、これはすごい。普段のテレビにない映像だと思った。だから私は結構（オリンピック中継を）面白く見た。ただしアナウンサーが大叫びしたり、あまりショー化したものは見ていない。大体、ナマで試合の経過と結果を見る、結果に付随した映像は見ています。多分 NHK しか見ていないのではないかと。

出席者 私はほとんどスポーツニュースと新聞だけしか見ていない。あまりオリンピックには興味がないので。

出席者 今回のオリンピック放送はつまらなかった。最低の放送だった。NHK と BBC がもうちょっと相談して放送計画を立てれば、もう少しましな放送になった。BBC は威張っているからね。NHK も BBC の前では頭が上がらないから、BBC のお仕着せになっていて、それが放送にも出ていた。だから NHK は金持ちの日本らしく、自分のチームとして、スタッフを 100 人でも 200 人でも現地に送り込んでもっと自由に作ればよかった。そうすればお仕着せの映像だけでなく、自由に加工した映像が（日本の視聴者のために）送り込めたのではないかと。ということで私はあきらめて見ていた。日本の選手がかわいそうなので。

{注} BBC のオリンピック報道に関わったスタッフ 765 人  
（北京オリンピックは 493 人）「新聞研究」資料より

<アメリカでは生放送せず、ゴールデンに録画放送>

出席者 アメリカのオリンピック放送はどうだったのか。アメリカはNBCが放送権を持っているので、他のチャンネルでは放送できない。したがって五輪一色で他の放送が見られないという不満はない。NBCは一般ニュースをどのように放送していたのかなど「新聞研究」はロンドンレポートより、アメリカの放送事情を伝えるべきだった。

出席者 前回までは競技の時間を、アメリカのネットワークの時間に合わせて設定し編成していたが、それが通らなくなった。細かい情報はインターネットで十分浸透してきたので、むしろ短いデータだけを断片的に出すよりも、放送時間が遅れてもゴールデンタイムにまとめてどっと出すほうが視聴者に受けて、かえって視聴率も上がったという考え方のようだ。

出席者 アメリカではすでに終わっているゲームを全部ナマ風にゴールデンタイムで放送した。すでに終わっている競技なのにナマのような形で見せられる、そのことに不満があった。

出席者 アメリカ人はあまり気にしないのではないか。

{注} 毎日新聞（2012年8月8日付）に次のような記事。  
昼間にあった開会式（7月27日）を「独占放送権を持つNBCは生放送せず視聴率の上がる夜に録画放送したため、現地の興奮ぶりをツイッターが伝えるのと裏腹にテレビでは何も放送されない事態に。  
英紙特派員がこれを批判。」

出席者 （オリンピック放送を）ナマで見たいという人がたくさんいるのに、全部結果が分かってから放送されたのでは（不満も出る）。

出席者 そういうことはアメリカでは常にあること。中西部とニューヨークとロサンゼルスでは全部違うので、スポーツニュースは起きている時間帯に放送するんだろう。

出席者 ロンドンオリンピックのように時差8時間ある場合は、生放送は夜中の時間帯で見る。そして昼間はもう少しまとまった時間帯で編成するほうがいいのかもわからない。

出席者 アメリカではゴールデンタイムの価値を上げるという意図もあったのではないか。

出席者 きちっと放送時間を決め、12時とか、夕方の6時に上手に編集して放送したほうが忙しくてせっかちなアメリカ人には受け入れられるのではないだろうか。

出席者 時差があるので仕方ないのかもしれないが、確かに終わってしまっている競技を今ナマでやっているように見せられるのは多少興味をそがれてしまう。

出席者 でも日本人が絡む試合というのはやはり文句を言いながらも見てしまうという悲しさがある。

司会 資料にロンドンオリンピックの各放送局のキャスター、アナウンサー、リポーターの一覧が出ているが、この顔ぶれを見て（メインにタレントが含まれている）日本のオリンピック放送はかなり特殊だと思わないか。スポーツ中継というより一般の“番組”にしている。バラエティー番組の色合いが出ている。

{注} ロンドンオリンピック  
各放送局のキャスター及び  
主なアナウンサー、リポーター

#### TBS

中居正広、出水麻衣、高橋尚子

テレ朝

松岡修造、竹内由恵

フジテレビ

国分太一、小倉智昭、三宅正治、舞の海

日本テレビ

櫻井 翔、明石家サンマ、上田晋也

テレビ東京

佐藤隆太、古閑美保

#### NHK

武田真一、広瀬智美、鈴木奈穂子、山岸舞彩

<パラリンピックはドラマ ワンシーンワンシーンに感動>

出席者 私はパラリンピックというのはドラマだと思う。ナマで見る必要がないといえれば言いすぎかもしれないが、ナマであってもナマでなくても、何度見ても感動を呼ぶ。その意味ではパラリンピックというのはすごいドラマだと思う。だからもっ



と放送して欲しいと思う。

ほんものの（健常者）オリンピックはやはりスポーツであって、勝ち負けであって、記録であるというその側面が非常に大きいから、これはできるだけナマの形で見たい。まとめて放送（編集して放送）することよりナマの映像にインパクトがある。

司会 パラリンピックはあまり見られてないのか、NHK もうんと力を落として E テレビで放送している。

出席者 パラリンピックは見ていると、いじらしく思う。

出席者 いじらしいというよりも、僕は前向きに見ているのですごいと思う。いじらしいというのはこちらが優越感を持っているが、そうじゃなくて、あんなことはとてもできない。

出席者 普通の人から見たらいい、かわいそうに思っているのではないか。

出席者 かわいそうにという感じではない。我々障害者を見るときに哀れみみたいなことを考えるが、あのレベルの高い競技の模様と一生懸命さを見ていたら、それは間違いだということが分かる。我々よりも強い精神力と技術力、テニスなんか、その技はすごいじゃないか。民放としてはパラリンピックについてどういう位置づけをしているだろう。

司会 民放はほとんど競技の中継はしていない。ニュースやワイド番組のコーナー企画としてはとり上げている。

出席者 本番のオリンピックの番組がバラエティー化している民放において、ある意味でドラマの要素があるパラリンピックの中継放送を何故やらないのか不思議である。

出席者 水泳などの競技を見てみると、健常者と変わらぬタイムを出している。そして優勝したときの表情がいい。

出席者 陸上でも両足義足の選手がものすごいスピードで走っている。我々が走るより速いと思った。

出席者 劣等感を感じないが、自分のダメさ加減にがっかりする。

出席者 健常者のオリンピックより、より一層想像させられる部分がある。柔道の重量級の決勝なんか見ている、これまでにあまり長い試合がなかったのだと思う。目の不自由な人の柔道だったので離れることができない。離れて試合をすることができない。組んでやろうと思ったら、どうしても早い勝負ということになってくる。日本選手が優勝した場面などを見ていると、中国選手が仕掛けて、それを返して決まり。その前の試合もそうだったが、この人たちにとっては長引く試合は難しいのかなということを考えてたりした。また水泳のバタフライの競技でも、バタフライといいながら、片腕をかいているだけで、バタフライの型（定義）をどこまで許しているのかなと思った。健常者の競技と違って想像を掻き立てられる、見ていると非常に考えさせられた。

<インタビューアーの不勉強 選手の受け答えも紋切り型>

出席者 パラリンピックの選手がメダルを取ったときの表情を見て、素直に喜んでいる表情が画面に映し出されていた。

はじめにジャーナリストのオリンピック評が紹介されていたが、本番のオリンピックの日本選手（メダリスト）のインタビューはくだらないと思った。インタビューを受ければ「このように言え」（「皆さんのおかげで」とか）と監督から指示があったに違いない。文章が決まっているようにも受け取れる。パラリンピックのメダリストの場合はうれしさが満面に出ている。

司会 一つにはインタビューアーが下手になっている。インタビューアーがこの選手から何を引き出したいのか、何を聞きだしたいのか、はっきりしていないので、とりあえず「今の気持ちは」という質問になるんだと思う。

出席者 忙しいので調べる暇がないのだろうか。

司会 その人の気持ち（例えば選手）になっていないのではないか。その競技をちゃんと見て、この選手がああ瞬間、どう思ったのだろうかというところに質問のポイントが当たってなくて、結果に対してどうですか、ということだけで終わってしまうケースが多い。選手のほうも「うれしく思います」と答える選手は紋切り型の答えだと思う。昔の人は「うれしいです」と言ったんだが、最近の選手の答え方をよく聞いていただくと、スポーツ選手はみんな「うれしく思います」と言っている。「うれしく思います」と言ったのは、昔は皇室だけだった。

出席者 （野球の）インタビューでも同じ言葉が出てくる。全部自分の言葉じゃないんだ。

プロ野球の選手は「応援よろしく」とみんな言うな。ゴルフの石川選手が賢いことを言うといわれているが、あれもまあ教えられて言っているのかもしれない。

出席者 シャベリ上手な人は生まれつき、いますからね。

出席者 インタビューアーはそれを見極めなければならない。

司会 確かにインタビューアーのレベルが落ちてきている。インタビューする人が競技に入り込んで見ていると何か違うもの、人間的なものが出てくるはずである。

出席者 日本語の表現能力の上でインタビューされる側も落ちてきているのではないか。

出席者 まず予備知識が足りないことがあげられる。

出席者 例えばある選手に質問する際、この選手だと勝ったとき一番何を思うか、事前に考え、勉強しておけば、「おめでとうございます」と切り出す前に、違う言葉が引き出せるはずである。勉強していない。だから感動がない。

司会 そういう意味では、NHKの鈴木奈穂子、ロンドンの特設スタジオでメダリストにインタビューしていたアナウンサーだが、事前調査（取材）がよくできていて結構いいインタビューをしていた。

<大阪の民放4局が独自のリポーター特派>

司会 ところでもう一つ、今回の特徴というのか、大阪の各局がロンドンにリポーターを送り込んでいたのをご存知だろうか。在阪の4局が揃って独自のリポーターを特派したのは今までになかったことではないか。KTVは堀田 篤アナウンサー（入社3~4年）が現地から報告していた。YTVは脇浜紀子さんが前半ロンドンに行って取材していた。（ABC、MBSもアナウンサーを派遣し、午後のワイド番組にほぼ毎日ロンドンからのサイドストーリーをレポートしていた。ただし、取材許可書を所持していないのでオリンピック施設には入れない）。

出席者 地元出身の選手が活躍しているから、特派したのではないか。これまでなかった傾向だ（和歌山出身の体操選手、なでしこジャパンなど）。

出席者 プールの代表取材とは別に、これまではスポーツ局などのスタッフが現地取材したことはあるが、地元のローカル番組のために各局がそれぞれリポーターを派遣

するのは異例のことか。

出席者 インターネットを使って簡易に生中継できるようになったことも関係している。

出席者 ローカルの視点で（オリンピックを）取材していくのはいいことだ。

司会 今回は関西の民放も積極的にオリンピックと向き合った。

<オリンピック放送で視聴率を問う必要ない>

出席者 全体的なことを申し上げると、オリンピック放送で民放が視聴率を稼がなければならぬものか。私はそれが疑問だと思う。新聞には視聴率は最低と伝えられているが、それでもいいんじゃないかと思っている。

出席者 オリンピックに限らない。視聴率は全部どうでもいい。

出席者 視聴率が最低だから、中身は悪いという言い方をしているがおかしい。

出席者 新聞はそういう書き方をするんだ。例えば「紅白歌合戦」は昨年より低いとか、「朝ドラ」が低いとか、新聞は視聴率主義を批判しているはずなのに、何故かこういうときだけ視聴率が低かったと書く。

出席者 それは新聞メディアの問題だ。基本的にオリンピックなんかは視聴率がバカ高くなるものではないと思っている。低くていいと思っている。だから意味がないことはない。意味があるのだ。だから視聴率を上げようと思って、各局がいろいろ工夫するというのは意味がない。

出席者 それ（変な工夫、演出）がかえってしらせさせる。妙なタレントを送り出してリポートさせるなど。民放は表にあるようにメインのキャスターはタレントである。

出席者 そこらが違う。もっとプロフェッショナルを送り出さないといけない。

出席者 キャスターに有名タレント、現地に英語のできる女性アナウンサーを配したのが民放の共通点であった。

{注} この会合の 10 日後、次のような報道があった。

(朝日新聞 2012 年 9 月 21 日付朝刊)

「ロンドン五輪の民放全体の放送収支が赤字となった。日本民間放送連盟の井上弘会長（TBS テレビ会長）が 20 日、定例会見で明らかにした。放送権料の高騰が主な要因で、民放と NHK が合同で国際オリンピック委員会 (IOC) から放送権を購入するようになった 1984 年のロサンゼルス大会以降初めてという。赤字額は公表していない。今大会と 2 年前の冬季五輪を合わせた放送権料は 325 億円」。

## ② 「メディアウォッチング」 今後の活動について

司会 二つ目の議題、「メディアウォッチング」の今後の活動について皆さんからアイデアがあればお伺いしたい。

「メディアウォッチング」世話人が話し合っただけで考えた一つの案が下記の資料。

### 「放送を考える会（メディアウォッチング）」

今後の会の運営について 2012 年 5 月 30 日

「メディアウォッチング」の会は、2008 年発足し、今年 4 年目に入ります。これまで年に 3~4 回例会を開き、各分野の専門家から放送・新聞、そしてネットメディアの現状などについて貴重な提言をいただきました。特にメディアを取り巻く新しい状況の中で既存のメディアがどう対応し、立ち向かっていけばよいか、ゲストを交え活発に議論してきました。

会の活動（2008 年から 2011 年まで）の成果は、『3 年間の記録』（125 ページ）として小冊子にまとめました。

ところで「メディアウォッチング」の会の運営について、いくつかの意見が寄せられています。例えば、

- ① ゲストを軸にして会を進める従来型の方式がよいか。
- ② それとも、原則ゲストは招かず、メンバー自身が一人ひとり積極的にメディアと向き合い、ウォッチャーズになる、つまり一人ひとりがメディアの“観察者・見張り人”になって報告しあうというスタイルに切り替えるか。

皆さんのご意見をお聞かせ下さい。

来年はテレビ開局 60 年の節目に当たります。

②の場合、長年放送現場に携わってきたわれわれ自身が、改めて「テレビ」の現状に目を向け、追跡し、観察していく。

「テレビ」をどんな角度から、どんな方法でウオッチングしていくかについては、今後の課題として議論する。

Web サイトを中心に評論活動を続ける若手の研究者は、「テレビ」について次のような厳しい見方をする。

「マスメディア、とくにテレビは今、価値そのものを作り出す力を失いかけている」

(宇野常寛・批評家、「毎日新聞夕刊『月間ネット時評』 2012.5.24 付)

「放送を考える会 (メディアウオッチング)」世話人

<日本人の討論に欠けているのは、思想・哲学・宗教の視点>

出席者 昨日 (9月9日) NHK の朝9時の「日曜討論」“原発ゼロ?”を見た。原子力発電の問題 (2030年に原子力発電を20~25%か、15%か、ゼロにするかなどエネルギーの配分をめぐり) で 専門家3人と政府側の人間が議論しているのを見て、何か欠けているなど考えた。東日本大震災後、今起こっている問題 (多くの死者、土地の荒廃など) そういったことをベースにして考えれば、自ずとプラスアルファの分というか、議論の対象にならないといけないのに議論していない。今度事故が起きると耐え難いというか、存在そのものが危うくなるような事態になるのに、そういったことを前提に話をしていない。ということは学者もエコノミストも人の命とか、そういうものが頭に入っていないのだなと思った。これは大欠陥 (の番組) だと思った。

それから先日京都の国際会議場で災害時の宗教の役割を問う世界宗教者の集いが開かれたが、どなたか参加された方がいるか。僕は会場に近いので出席した。

いろいろなディスカッションをするとき、日本人の中で欠けているのが思想、哲学、宗教の視点である。考えてみると、ヨーロッパではイスラムとか、キリスト教、モルモン教といろいろな宗教があつて、聖書を読む。ベースが違う。そういうものが土台になっているということが日本人の観念から消えている。

よくよく考えてみると、日本の民放、NHK を含めて、宗教とか、哲学的な考え方とか、全部オミットしている。(テレビに) 坊さんが出てきたら、尼さんの変な迷信的な人しか出てこない。たまに宗教家が出演していてもいろいろ物事を考える場合の土台に全然ならない

地上波テレビ局、特に民放に宗教や原子力を担当する専門の記者がいるのか問題である。福島で起きた原発事故の場合、民放は専門の記者がいなかったため、結局、専門家の考え方に追従した報道しかできなかった。

それにもう一つ哲学のことを考える専門家（記者）を育てなければならないというのが僕の考え方である。

先ほど触れた世界宗教者の集いというのは最終的に何を言ったかといえば、こうやってアーメンというのがメインだが、しかし今回はこんなことを言っておられない、だからメッセージを出した。原子力発電も廃止とまでいかないけれど、それに近いメッセージを出している。

ところが、この世界宗教者の集いの模様を（ニュースで）取り上げたのは京都新聞、毎日新聞は10日後に掲載されていた。他の新聞は扱わなかった。

原発廃止ということについてメッセージを出している宗教団体は禅宗と浄土真宗、これはすごい信者をもっていて、影響力があるんだということも（メディアは）認識していない。そしてディスカッションもしてこなかった。これは日本人の欠陥ではないかと思っている。それからもう一つのテーマ。

<10年前予測の“放送の将来像”？ 過去を振り返って再検証を>

出席者 たまたま資料を整理していたら、BSデジタル放送が始まる2年前、「21世紀の放送～識者140人への“放送の将来像”に関する調査」（TBS「新調査情報」1998年3月発行）の特集記事が見つかった。

その特集の中身は、

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| *デジタルはいつ始まるか。                  | これは始まっている。                                |
| *各媒体は棲み分けか、自由競争になるか。           | 識者はほとんど競争になると言っている。                       |
| *ソフトの質は上がっているか。                | ほとんどの人は上がっているでしょうと予測。                     |
| *ジャーナリズムの役割を果たしているか            | これは果たしていない。                               |
| *地域情報サービスの可能性                  |   |
| 減るか増えるか                        | 心配していると言っている。                             |
| *ソフト不足に対するシンジケーションの市場は成立するかどうか | これは予測としてシンジケーションの市場はできるようになっているでしょうとしている。 |
| *NHKを含めて再編成はあるか                | 多分再編成はある、識者の予測は4割ある。                      |

つまりこの特集では、10年前に「21世紀の放送像」を予測しているのだが、識者の予測は何も当たっていないことになる。

日本には、NHKが3チャンネル、BSがあつて、地上波があつて、しかも東京のキー局がBSを所有。あとWOWOWとスターチャンネル、CSのほうから上がっ

てきたのはスターチャンネルの3チャンネルとJ:COM(住友商事)のスポーツチャンネル、それからIMAJIKA BSがやっている1チャンネルと競馬チャンネル、これだけしかない。今言ったチャンネルで日本のメインのHDTVのチャンネルをおさえている。それにCSの有料チャンネル、3000~4000円支払えば、見られる。これは別の第二次産業のようなもので、古い体質のまま残っている。つまりデジタル化になっても民放の再編成は依然として行われていない。だから放送ジャーナリズムも昔のままである。放送について10年前どう考えていたか、過去を振り返って、前にこんな予測をしていたけれど、今どうなっているかを考え、検証するディスカッションを是非して欲しいと思っている。

<テレビのあり方 原点から問い直す>

出席者 あまり難しいことは考えたことがないが、とにかくテレビのあり方というのを原点に戻って考え直したらどうか。三橋貴明さんの著書「疑惑の報道~大マスコミ」(飛鳥新社、2011年発行)で一度放送を考え直せと書いている。この著者はまだ45歳ぐらい、我々も若い人から突き上げられている。テレビの経営者は何を考えて、指導しているのか、そして番組作りをしているのか。市民を啓蒙し、世論をリードしようという意欲も感じられない。まだイギリスのほうがその意欲はある。

出席者 まだイギリスのほうがはるかに意欲は強い。先進国では日本は古い規則に縛られて身動きできなくなっている。

出席者 今テレビに限らず、マスコミ全体に言えることだが、ものごととのとらえ方が一面的な傾向が強いのではないかと思う。例えば、原発の話でもエネルギーが足りる、足りないという議論にウエイトを置いてなされているが、それとは別に今表面に取り上げられていない使用済み核燃料のリサイクルの問題がある。リサイクルの技術がまだ確立されていないのに原発をどんどん稼働させている。そして全国原発の使用済みの核燃料がプールの中に水づけにされて残っている。使用済み核燃料は、使用前の数十倍の放射能を出すといわれている。原発問題についてはこのように検討課題がいっぱい置き去りにされている。メディアはこういった側面にも目を向けなければならない。

司会 この会を今後どのような方向で進めていけばよいかご意見を伺っているが、例えば、「放送を考える会~メディアウォッチング」として“推薦したい番組”をリストアップしていくというアイデアも出ている。

“推薦したい番組” = 「面白い」、「感動した」、「考えさせられた」、「斬新」

「何故かいつも見ている」「記録としての価値高い」など



一応、会として選考基準を決める。

出席者 面白いテレビ番組をリストアップするのもいいが、三橋貴明さんの「疑惑の報道」という本が面白かったという話に関連して、この会でメディアに関係した本の紹介をしていただけたらどうかと思った。この本、面白かった、どういう風に面白かったか、ということはこの席で紹介していただくようなことがあってもいいのかなと思う。

僕が読んで面白かった本は澤田隆治さん（元 ABC）と大山勝美さん（元 TBS）が植村鞆音さん（作家）の司会で、縷々放送の歴史をしゃべっているのだが、これはものすごく面白かった。この時代の志というか、情熱というのは今まったくないとその本を読みながら感動した。

{注} 「テレビは何を伝えてきたか〜草創期からデジタル時代へ」

（澤田隆治、大山勝美、植村鞆音）ちくま文庫

2012年5月発行

先ほど提起されたた宗教の問題、これはメディアにもかかわる問題だが、日本人にかかわる問題だからこれは大問題である。

<重大な問題については 局独自のオピニオンを提起>

出席者 確かに大問題だが、それを無視というか、この問題にかかわらないということ事態がもう許されない時代になっていると思う。

最初、この会に出たとき、沖縄問題と原子力問題、それに東日本大震災の問題、この三つは関西の問題として取り組むスタンスがいる。つまり全国ネットとか、ローカル局の話ではなく、関西の放送局の人間が現地に行って、番組を作り、勉強して考え、それをベースにして発表する専門家を養成してほしい、それくらい重要な問題だと言った記憶がある。

つい最近、プラス宗教ということを思いついた。各民放は宗教についてどう考えるか、日本人の宗教心というか、精神的な問題とどこまで向き合えるか。こういう問題について勉強し、取り組んでいく人材を民放は持って欲しいと思う。

民放というのは、重大な問題について自分たちのオピニオン（見解）を出す時機に来ているし、出さねばならない時代になったと思う。あくまで人から教えられたり、見聞きしたりしたことだけを伝えるのではなく、局の報道局でディスカッションして決めた重要な問題について自分たちはこう考えると（見解を）提示、そういうことをやってほしいと思っている。放送局には新聞社の社説とか、社論といったものはないが。

出席者 高橋信三基金を使ってシンポジウムを開く話が出たが、高橋さんという人のものの考え方に放送の原点がある。放送というのはジャーナリズムを忘れたらダメだと言っていた。それはNHKも民放も同じ、商品の売り方、金の稼ぎ方が違うのであって、やっていることは同じである。

開局したとき、電通から関さんという人（営業局長）がきて、「何でも組んでいい（どんな内容の番組でもいい）私が売ります」と現場に言っていた。ABCだってそういう姿勢であった。特にTBSもはじめはそうだったが、それがどんどん壊れていって、（極端なことを言えば）現状はコマーシャルさえ放送されればあとは何でもいい、それで尚且つ稼げれば社長はそれでOKやと言った状況になっている。これをもう一度元（開局当時の姿勢）戻さないといい番組が出てくるはずがない。そういう意味で今度のシンポジウムは現役の放送人がどのように考えているのか知るうえでも興味がある。

<テレビは画面の“美しさ”がいのち 文字やワイプの乱用は避ける>

司会 テレビというメディアは(映像がメイン)画面の美しさのいのちなのに誰も気にしていない。画面に文字をいっぱい出して、そのうえ（スタジオにいるゲストの顔を）画面の片すみにワイプして窓枠のように出し、画面をより煩雑にしている。スタジオのゲストに番組を見せているんだな、それでは家庭で見ている我々は見なくていいんだねと思ってしまう。そういう妙な見せ方(演出)をする番組が多い。折角いい画面が映っているのに何故素直にその美しい映像を見せようとならないのか。画面にいろいろなスーパーインポーズ(字幕)を付けて、テレビを見ている側からすればうるさくてしょうがない。

出席者 テレビ画面の片すみに小窓を作るといっているのを見てると、いやになる。バラエティー番組に多い。止めてほしいと常々思う。画面の美しさをもっと生かした見せ方をして欲しい。

出席者 画面の文字はわずらわしいという感じがする。特に交通情報や気象情報の場合、交通機関が止まっているというスーパーが流れるが、それが運転再開されましたというとき、急いで番組中に流す必要があるか、番組がひと区切り付いたところで伝えればいいのではないか。気象情報でも警報発令は理解できるが、解除のスーパーはタイミングを計り流して欲しい。

<現役の放送人と対話したい この会に呼べないか>

出席者 この会の運営についてだが、今までもいろいろなゲストを呼んでいただいて、よかったと思う。ただこれからは現役の放送人ともっと対話したいと思う。現役に

対して、我々OB だから何か見下ろすといった雰囲気が出てくるのはよくないが、現役で活躍している人々が今何を考えているのか、疑問がいっぱいあるので聞きたいような気持ちである。尋問じゃなくて。圧力になるだろうか。

司会 私はちょっと隔靴搔痒の感がある。ずっと。

出席者 現役の人は集まってくれない。現役同士だけでも最近集まることは好きじゃない。昼間の時間帯に集まるのは物理的に無理だと思う。

<メディアのウォッチングは続ける 情報交換、問題提起の場に>

出席者 今日はゲストを招かない形での会であったが、こうして集まって非常に有益で楽しかった。

基本的には我々は普通の老人ではないということ、メディアで働いていた人間である。だからメディアのウォッチャーズ、メディアウォッチングを常にやっているということだ。皆さんの話でも常にこの間のテレビがこうだったとか（テレビ評、メディア評）が聞けるということがある。僕が見ていなかったら、この会の出席者からその話が聞けるということがたいへん大事なことだと思っている。だから情報交換の場ということになる。

ゲストを呼ぶということもあっていいが、ゲストなしでも情報交換はできる。

それから先ほどの問題提起（討論には哲学・宗教の視点、放送局もオピニオンを提起）といった話もできると思う。今日は時間切れになったが。

「最近こんな本を読んで面白かった」という話も聞きたいと思う。それから歴史の話も必要だし、ジャーナリズムというのは何だということをこういうところで話ができる場も必要だし、大事だと思う。この会の形はこのまま続けたらいい。

これはこういう形でこれからの人にもバトンタッチしていきたいと思う。

それにホームページができたのでそれを利用するということが考えられる。ネットを利用するという活動と会合とを併せてやっていけばと思っている。

司会 「放送を考える会」のホームページは他の同好会とは異質のページになっているという説明があったが、こういう性格（メッセージ性のある）のホームページを掲載するという事は民放クラブの一つの姿勢を示すものだと思っている。単なる遊んでいる会ではないということを示すページではないかと思っている。私はこの会に参加し始めて何を期待していたか言えば、もっと放送人としてのボランティア活動ができないか、例えばアナウンサーのOBが集まって学校に教えに行くとか、そういうことをやっているのかなと思って参加したのだが、意外に外に向かった活動がないなと感じた。

そういう意味ではホームページができて発信できるのは非常によいことだ。尚且つ「放送を考える会」のあり方を外に向けて PR することは、関西民放クラブの一つの意思表示というか、（今も放送と向き合っている）姿勢を示している点で期待はしているところである。

出席者 いっそのこと商品を作ったらどうか。「放送を考える会」で出版委員会を組織して1年かかってでも知性の高い内容のものをまとめる。これから放送人になりたい人に向けた本、学校の先生や先輩から教わってないマスコミ人になるためのコツのようなものを記した本を作ってはどうか。

出席者 私は人に教えるというような姿勢ではない。今の若い放送人は何を考えているのかという疑問を持っているので、本人たちを呼んでしっかり討論して聞きたい。自由な雰囲気の間をつくり、ここで話し合いたい。こちらから教えてやる、お前から何をしているかというのではなくて。

出席者 役員、局長クラスなら来てもらえるか。

出席者 本当は現場の人がいいが、会を開く時間の調整が難しい。

出席者 「メディアウオッチング」というタイトルにひかれて、これが一番大切なことだよ、放送ジャーナリズムというのはこうあって欲しいということをディスカッションできることを期待してここに来ている。

（ここで2時間を超える討論はひとまず終了）

### ③「放送を考える会～メディアウオッチング」ホームページ 6月から掲載始まる

<メディアウオッチングの活動記録 ホームページにアップ>

「メディアウオッチング」のホームページは1ページ目に2009年からの「活動記録」を一覧にして掲載している。昨年2011年10月に発行した小冊子「放送を考える会～メディアウオッチング“3年間の記録”」をベースに、「会の趣旨」、発足準備会（2008年10月）の段階でまとめた「民放OB・OGの放送観」、それに2009年4月の第1回から2012年5月の14回目までの定例会合のテーマ、ゲスト名などを掲載している。この中で2011年4月、震災直後に開催した会合（第9回）での自由討議の内容「東日本大震災報道を考える」は第9回の日付をクリックすると、その詳細が閲覧できるようになっている（6月17日からアップ）

以上